

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑨⑤

—「おちんちん」の話—

津久見市医師会立津久見中央病院 泌尿器科 平田裕二

日本には生後に包皮を切除する割礼という儀式がありませんので、おちんちんは皮をかむった状態が普通です。みんなそれぞれ異なった大きさとかたちをしているため、大丈夫？と不安に思うこともあるのではないのでしょうか。

悩みを持った方にとつては、週刊誌や雑誌の広告で包皮手術の広告は非常に魅力的で気になるでしょうが、医学的に手術を要するのはごく一部の場合です。「ナチュラルなおちんちん」が一番良いのです。おちんちんを被う皮膚を包皮と呼びますが、包皮を亀頭が露出されるまで翻転できない状態が包茎です。亀頭までの翻転はできないけれど、尿がでてくる穴(外尿道口)が露出できれば仮性包茎、できなければ真性包茎です。包皮が完全に翻転できる割合は、6か月で0%、11〜15歳で63%、18歳で98%程度と報告されています。包茎は、恥垢が原因による発がん性、性

行為感染症などの問題が以前は指摘されていましたが、現在では否定されています。包皮の出口がせまくて排尿の際に風船のようにふくらむ場合や包皮の出口がせまくてかんとん包茎をきたす場合や亀頭包皮炎を繰り返す場合が治療の対象になります。治療については、ステロイド軟こうを包皮に少し塗ると皮膚が伸展してほとんどの場合包茎の程度が改善します。包皮の先端が炎症により硬く変化した乾燥性閉塞性亀頭炎の場合は手術が必要になります。包茎についての医学的な考え方は現在では大きく変わってきていますが、今でも先進国において神と契約を結ぶために割礼の儀式が行われているのは、なんとも不思議な感じがします。おちんちんについては、「陰茎が小さい」、「袋の中にとまたまがない」、「たまたまが小さい」など不安に感じるようであれば当科にお気軽に相談ください。

